

平成28年度文化庁日本語教育大会
パネルディスカッション

日本語教育人材の専門性を考える
—外国人就労・定着支援研修の実践から—

2016年8月27日

日本国際協力センター
渡部 裕子

定住外国人への就労日本語—事業背景①

- バブル景気の深刻な人手不足

⇒ 1990年 改正入国管理法

南米日系人の日本での就労が可能に

2008年 ブラジル約31万人 ペルー約6万人

多くは派遣会社を通じた製造現場のライン業務

- 2008年 世界同時不況

⇒ 外国人労働者の解雇、雇止め

厚労省の緊急雇用対策『日系人就労準備研修』(H21～26)

【先行研究】

- ・滞在年数が長くても特に日本語の読書きに関しての自己評価が低い
- ・派遣会社を離れて個人での求職活動が難しい



- ◆ 就労・求職場面に対応できる日本語力
- ◆ 労働法令・雇用慣行等の基本知識

定住外国人への就労日本語一事業背景②

平成27年度『外国人就労・定着支援研修』

【事業目的】

- ・定住外国人の安定雇用の促進
- ・少子高齢化に伴う労働人口の減少による、人手不足産業や成長産業への人材確保

【対象者】

在留資格：永住者、定住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等

【実施地域・受講者数】

- ・16都道府県86都市（日系人集住地域に加えて、東京・大阪など）
- ・年間約4000人

就労・定着支援のシラバスの考え方

1. 職場でのやりとりに必要な日本語
2. 職場のルールやマナーを身につける
3. 求職活動に必要なノウハウとその日本語
4. 個人のキャリアプランを考えるきっかけとする
5. コースでの限られた時間を超えて、継続的に自分で学習できるように自律学習の姿勢を身につける

安定した就労

職業訓練

(公共職業訓練、
求職者支援訓練等)

専門コース

就労準備
コース
90h

職業訓練
準備コース
90h

分野別
専門コース
(介護)
120h

基本コース

レベル3
132h

レベル2
132h

レベル1
132h

日本語
資格

N2
120h

N3
120h

日本語資格準備
コース

日本語指導者に求められるもの

育成

日本語教育分野

選考

①事業趣旨と
受講者属性への理解

②課題達成型授業実践
のための日本語教育
的スキル

③日本におけるビジネ
スマナーへの理解

④一般的な求職活動
に関わる基礎知識

求職・就労分野

雇用に関わる社会情勢への関心

日本語指導者の選考

日本国際協力センター ※登録講師システム

| 応募要件 | 選考試験 |
|---|--|
| <p>1. 大卒以上</p> <p>2. 下記のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none">①大学学部での日本語教育主専攻・副専攻②日本語講師養成講座420時間修了③日本語教育能力検定試験合格 <p>3. 教授経験1000時間、かつ3年以上</p> | <p>1. 人物面接</p> <p>2. 技術試験(模擬授業)</p> <p>★課題達成型の授業実践が可能か</p> |

日本語指導者に求められるもの

—①事業趣旨と受講者属性への理解

1. 多国籍化・バックグラウンドの多様化
 2. 就労経験・就労の方向性の多様化
- ⇒低年齢層、ホワイトカラーの増加



★学習者が自ら課題を見出し、目標設定できる

ファシリテーター的役割の強化

日本語指導者に求められるもの

—②課題達成型シラバス ③ビジネスマナー ④求職活動

②課題達成型授業

場面設定・談話展開・表現・練習方法

◆その場面でやりとりされる日本語とは？

③ビジネスマナー

◆学習者のリスクにならないためには？

④求職活動

◆世の中にはどんな仕事があるのか？

◆採用側はどう感じるか？